

第9回 やるばい長崎下水道場 ～夜景に負けない若手の輝き～

○日時：令和8年1月28日（水） 14:00～17:00

○場所：長崎県大波止ビル7階会議室

○対象：長崎県内下水道若手（概ね40歳以下）職員

○参加：長崎県内9市町 22名



講義

1. 汚水処理事業について

九州地方整備局地域河川課より下水道事業の概要、九州における下水道事業、下水道の主な取り組み、安全対策の徹底といった下水道事業の歴史から各種対策事業について講義をしていただきました。

特に、管路事業を中心に交付されている令和 8 年度予算の概要や道路陥没事故、大規模地震等に伴うこれからの下水道事業の流れ、事業概要についてわかりやすくまとめていただいたおかげで、理解を深めることができました。

2. 下水道管路施設の維持管理について

日本下水道管路管理業協会より埼玉県八潮市での陥没事故とその後の動向（事故を踏まえた今後の維持管理のあり方）、最近の重大事故を踏まえた安全対策などについて講義をしていただきました。

中でも、コンクリート腐食のメカニズムや道路陥没のシナリオ、全国特別重点調査の優先実施箇所の調査結果などについての説明は現在話題になっている内容でもあるため、大変ためになりました。

その他にも、点検・調査の診断区分や高度化、考え方などのあり方検討会の検討内容についても、若手が理解しやすいように説明していただいたので、学んだことを今後の業務で活かしていきたいです。

3. 下水道新技術の紹介

日本下水道新技術機構より、日本下水道新技術機構の概要、下水道を取り巻く現状、AI を活用した雨天時侵入水対策などの新技術事例、下水道新技術導入のススメなどについて講義をしていただきました。

雨天時侵入水対策で AI を活用すると、大雨時に低コスト・短時間で侵入水の多い地区を絞り込むことが可能であり、その解析結果は流量調査結果と比較して、侵入水の多いブロックの絞り込みに有効だということが確認されているとわかりました。

この技術が実用化すると、各自治体での侵入水対策が行いやすくなると考えました。

4. 令和7年8月豪雨による被害と対応

壱岐市上下水道課より、壱岐市での下水道事業の概要、令和7年8月豪雨での被害、施設の被害発生から復旧までの流れ、今後の課題と対策について講義をしていただきました。

今回の講義は、実際に被害を受けて復旧したことによる課題や改善点について知る、いい機会になりました。

また、この経験から考えた“下水道の課題である雨天時侵入水への対応策“をあげ、共有していただいたことで、今後の他の自治体で被害が発生した際に対応や対策に活用することができると思われます。

5. 災害報告・事故報告の流れについて

長崎県水環境対策課より、事故報告・災害報告の流れ、連絡体制について、報告の対象について、講義を行いました。

実際に事故・災害が発生した際に、迅速に報告・対応ができるよう各事故・災害の報告対象について、近頃の事故・災害発生時の第一報の遅れについて意識していただけるよう第一報の重要性について、改めて説明させていただきました。

6. 下水道事業を振り返って

長崎県水環境対策課より、長崎県の汚水処理人口普及率、下水道を取り巻く過去10年間の状況の変化、下水道BCP、複数自治体による事業運営の一体化について講義を行いました。

下水道BCPでは、民間事業者による支援体制について、協定先と協定内容及び平常時の状況共有の事例や、災害時のトイレ問題・排水設備問題について、マンホールトイレの概要や活用・運用事例等を用いて説明させていただきました。

また、過去10年間の状況の変化の中では、第一次国土強靱化実施中期計画の策定や八潮市での陥没事故など、多くの事故や変化を振り返り、改めて激動の10年間だったと思います。